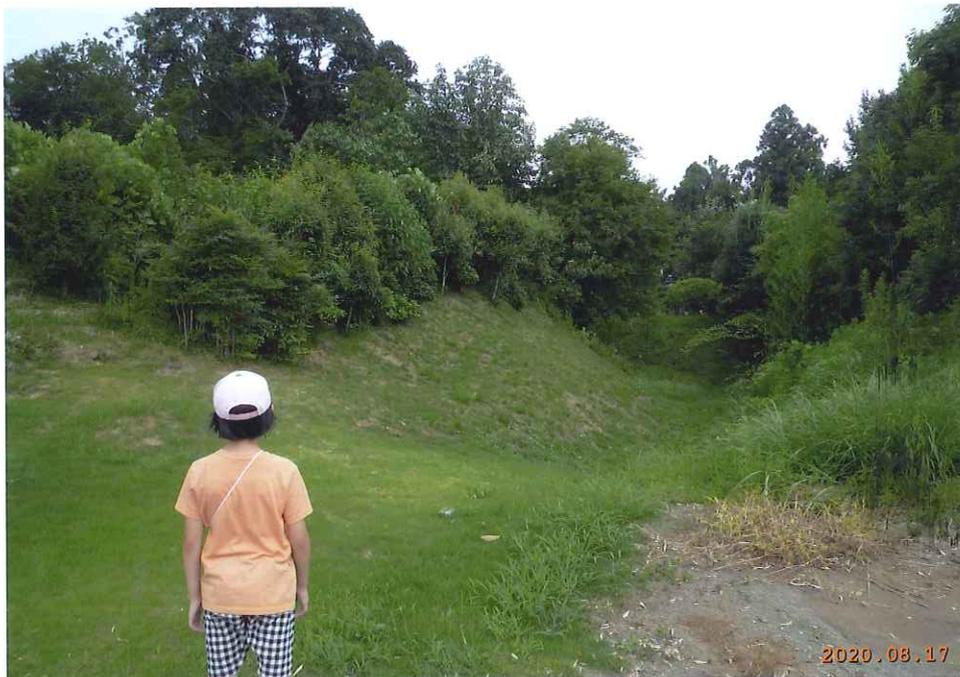


『わたしたちの郷土』 研究

一盛長者と八幡太郎義家を調べる

水戸市渡里町



水戸市立石川小学校

6年2組 大谷 聡実

目 次

1. 研究の動機
2. 研究のすすめ方
3. 研究したこと
 - (1) 伝説から年代や登場人物などを調べる
 - (2) 義家と長者の心情の変化
 - (3) 金のニワトリの謎
 - (4) 八幡太郎義家について
 - (5) 一盛長者について
 - (6) 長者山へ行く
4. まとめ



1. 研究の動機

今年は新型コロナウイルスのえいきょうでこれまでの生活とちがったことがいっぱいです。3月から学校が臨時休校になったり、以前のようにどこでも好きに外出できなくなったりしました。

まだコロナが落ち着かない状況なので、わたしの家の近くで調べられるものはないかとさがしていたら、図書館で借りた本の中に一盛長者とよばれる豪族の話があるのを発見し、とても興味を持ちました。

話を読み、少し調べてみると、昨年研究した甲斐武田氏の祖である新羅三郎義光（源義光）と一盛長者を滅ぼそうと考えた八幡太郎義家が兄弟だったことがわかったので、清和源氏についても続けて研究できそうだったので今年は一盛長者について調べてみることにしました。

2. 研究のすすめ方

- ① 伝説の本を読む、資料を集める。
- ② 現地に行ってみる。
- ③ 話を知っている人をさがす、話を聞いてみる。
- ④ わかったことをまとめる。



3. 研究したこと

(1) 伝説から年代や登場人物などを調べる

- ・時代 … 平安時代 後三年の役のころ
1083～1089年 永保3年～寛治元年
- ・場所 … 水戸市渡里町 長者山（飯盛山）

・伝説に登場する人物など

- ◎ 一盛長者 … その地に住む豊かな豪族
- ◎ 八幡太郎義家 … 奥州征伐のために東北地方へ向かう武将
十万余りの大軍を率いる。

その他 もてなしを手伝った村人、金のニワトリ

話の内容

今から900年もむかしのこと、八幡太郎義家は奥州（東北地方）へ向かうとき一盛長者の屋敷に立ち寄り三日三晩にわたりもてなしを受けました。そしてまた帰り道でも長者に世話になり『こんなに豊かに富を蓄えた豪族をこのままにしたら、いずれ災いになるかもしれないので今のうちに滅ぼしてしまおう。』と屋敷に火をつけ、一族を滅亡させてしまったというおはなしです。



(2) 義家と長者の心情の変化



(3) 金のニワトリの謎

家宝とされている金のニワトリをかかえ、追ってくる義家の兵から逃げようとし那珂川に飛び込んだ長者。その金のニワトリは、本物の鳥のニワトリだったのか私は気になっています。

大事な珍しい品種の鳥（外国の鳥、縁起の良い鳥、黄金色の鳥？カナリヤや金鶏鳥）だったのでしょうか。

それとも黄金でできたニワトリの置物だったから持ち出したのではないかと私の家族から意見が飛び出て、それならお金に換えられるかもしれないので持って逃げる理由として一番良いように感じました。

川に飛び込んで死んでしまった長者は、ニワトリより大事な人や物は他になかったのかも私は気になっています。富豪だったことで義家に敵視され、死ななければならなくなり、とてもかわいそうですが武将を相手にするときは自分の富や権力を見せすぎではいけなかったのかもしれない。

しばらく考えた私の結論は、生き物でも置物でも長者は誰にも渡したくない気持ちが強かったのでニワトリを持って逃げたのではないかというものです。

本当のことは長者にしかわかりませんが、いろいろ推理してみるのもおもしろいものです。

(4) 八幡太郎義家について

この伝説では悪者で登場する八幡太郎義家とは、一体どんな人物なのか？

源 義家 (1039～1106年)

平安時代後期の武将 伊予守 源 頼義の長男

前九年、後三年の役での活躍が有名。後に鎌倉幕府を開いた源頼朝や室町幕府を開いた足利尊氏などの祖先にあたる。

藁に入った煮豆を戦場で食べていたそうで、馬の背中に乗せていたことで納豆の原型ができあがったという話もあり、長者伝説だけではなく水戸には食を通してもつながりがありそうです。

伝説の本によれば茨城県(常陸国)には、義家の伝説が大変多く、今でも各地で語りつがれているそうで、その理由は義家が二度にわたって行われた奥州征伐のために、常陸国を通ったことと、義家が強弓の大将といわれるほど、強い弓をひく武将だったからとされています。

また、いくつか本を読んでいくと一盛長者に関する水戸市での義家にまつわるはなしを2つみつけました。

～雷神ササラの始まり～

奥州征伐から帰った義家に滅ぼされた一盛長者の財宝の中に三体のササラ(獅子舞に使う獅子頭)があったという。

長者は屋敷が焼ける前に家来に命じて、ササラをひそかに持ち出させた。その後、家来は今の水戸市大工町に住みついた。家来の死後、ササラは町の宝物(ほうもつ)となって、別雷皇太神宮(べつらこうたいじんぐう)に奉納されて雷神ササラになったという。雷神ササラのお祭りはしばらくたえていたが、再び行われるようになり、11月3日・4日の二日間、境内で秋の例大祭が行われる。

(茨城の伝説 茨城民俗学会編 日本標準発行より)

～十万原 (水戸市藤井町)～

義家は、康平年間(1058～1065年)、奥州征伐に下向の際、この地の藤内神社の北西の原に10万の兵を集結させ、神社に武運長久を祈って奥州に向かった。10万の兵を集めたこの原を十万原とよぶようになったといわれる。

(常陸の伝説 藤田 稔 編著 第一法規より)

(5) 長者山へ行く

住宅地の中を通る道を目的地のほうへ進んで行くと、道から畑のあるところに石碑が立っているのが見えました。周囲には畑やソーラーパネルがたくさん設置された土地が広がっています。

伝説の一盛長者の屋敷跡は現在も確認でき、石碑のあるところから奥へ歩いていくと、こんもりとした小さな山のような土塁の跡、空堀の一部を見ることができます。



ソーラーパネルの上に見える小さな山のようなものが、土塁の一部。

もっと奥の様子も見てみたかったのですが個人の家敷地なので先へは進めませんでした。

田野川や那珂川が近くを流れ、高台があることから屋敷の地として良い条件だったと思われます。長者が話の中で逃げるのに使った抜け道ではないかもしれませんが、那珂川へ通ずる秘密通路は今も長者山裏に残っているという話もあるようなので、私にとってとても興味深い場所になっています。

また、近くには遺跡も多く、古くから人が住み、寺や屋敷のある村だったことがうかがえます。伝説の中に出てくる『八幡河原』という名の場所も渡里地区コミュニティのホームページの中の古い地名についてまとめられているところから発見することができ、実際にあった場所だったことがわかりました。

伝説や長者山について近くに住んでいる人に話を聞きたいと思いましたが、私が訪れた日は外を歩いている人はおらず、新型コロナウイルスのこともあるので今回は直接話を聞くことは見送りました。

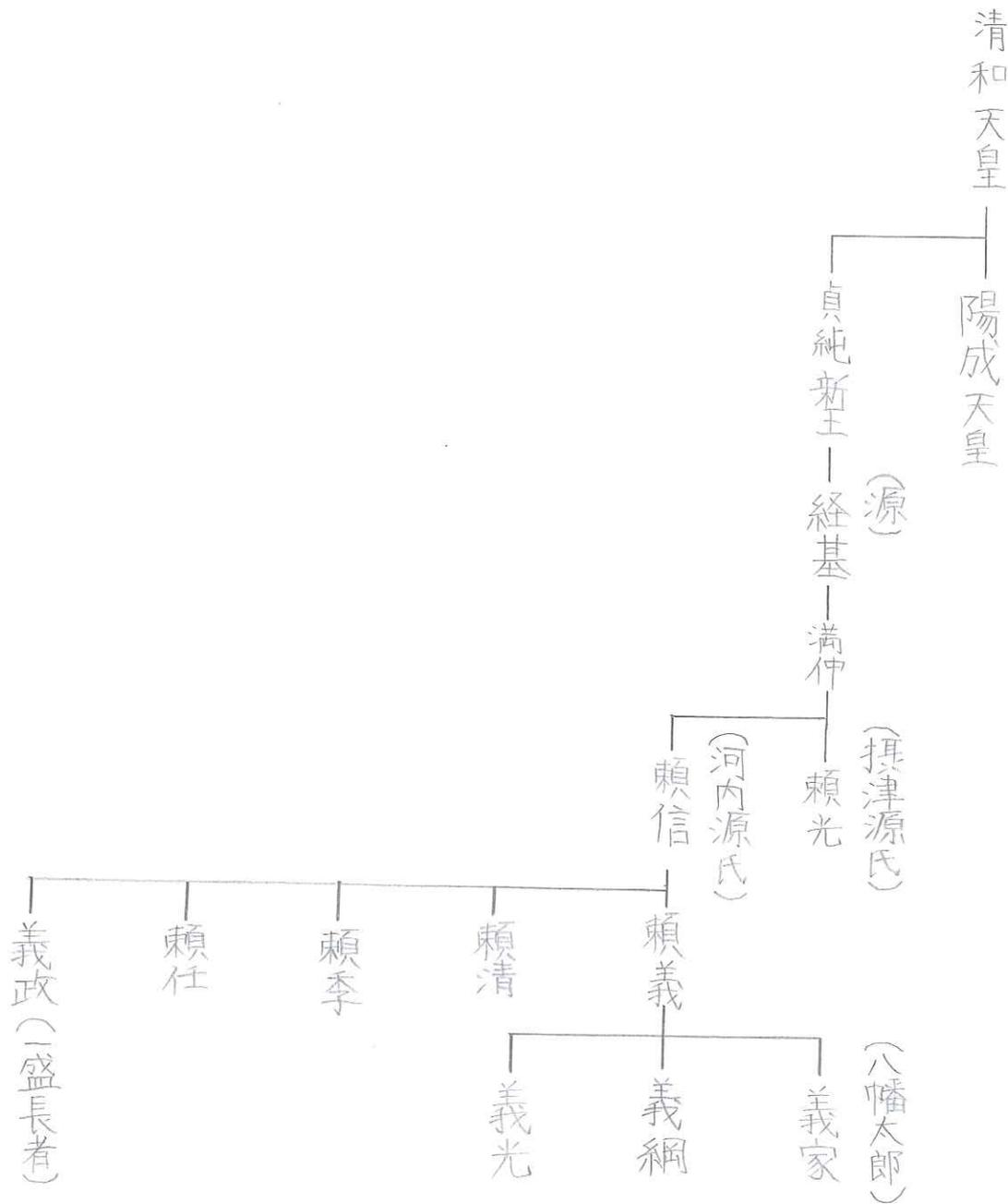
(6) 一盛長者と屋敷について

勝倉長者と縁戚で、ひたちなか市勝倉大平長者が谷津の勝倉長者が本家、水戸の一盛長者が分家であるという伝えがあり、勝倉長者もまた八幡太郎義家に屋敷を焼きはらわれ、一族を滅ぼされてしまったということです。

長者の名前 常葉 義政 源 頼信の五男
 築城年 承暦4年(1080年)頃
 構造 平山城だったと考えられる

長者山は台渡里廃寺跡長者山地区のある場所で、奈良時代から常陸国那珂郡の重要な拠点にありました。

系図





土塁



空堀



近くに落ちていた土器の破片

4. まとめ

●研究をして思うこと

900年もの昔のことを調べるのにあてられる時間が今回は短かったので、一盛長者について詳しい人を探ることができなかつたことが残念でした。

ですが、今回限られた時間や自分で決めた行動範囲の中でも研究できることはあり、普段何気なく通っている場所の近くにも古い歴史があるという発見がありました。

図書館から借りてきた伝説の本を読んで、実際その場所へ行って歩いてみたことは楽しかったです。これからも、気になったことを研究したいと思いました。

一盛長者伝説の石碑や屋敷跡の一部が現在もあるので、伝説の場所だということはわかりますが、もう少し、訪れた人に長者山のことがわかる案内や歴史についてまとめたものがあるといいのにと考えたので、もっとみんなで水戸の歴史を大事にして残していけるようにしたいです。

●参考にした本、資料など

茨城の昔ばなし (社) 茨城県観光協会

茨城の史跡と伝説 茨城新聞社編 (1976年)

常陸の伝説 藤田 稔 編著 第一法規 (1976年)

茨城の伝説 茨城民俗学会編 株式会社 日本標準発行 (1978年)

渡里地区コミュニティホームページ

